

■ 小ホールの床構造仕様の違いによるメリット・デメリット事例

	利用事例(ニーズ)	○ メリット	× デメリット
段床式 (建築的な固定床)	【ステージ部分】 ・ コンサート／発表会 ・ 集会／会議 ・ 講演会／講習会 ・ 映画会 ・ 練習	・ 音楽や演劇などの利用に配慮した設計が可能なことから、高いホール性能を確保することができる。 ・ 客席床が固定されることで“揺れ”や“異音”が発生する懸念が全くない。 ・ 固定客席であることからホスピタリティの高い椅子を設置することができる。 ・ 舞台及び客席を一体的なデザインとして統一しやすい。 ・ 可動客席に比較すると初期投資コストやランニングコストが安価となる。	・ 舞台及び客席の位置が固定されることから、舞台を任意の位置に移動させることや平土間利用など多様な活動や利用への対応が制約される。 ・ 集会や講演会利用を除くと、舞台芸術利用が主体となる。そのため利用率も一定程度制約されることも想定される。
可動収納客席方式 (客席部分を平土間にも可変できる方式)	【ステージ部分】 ・ コンサート／発表会（＝段床式） ・ 集会／会議（＝段床式） ・ 講演会／講習会（＝段床式） ・ 映画会（＝段床式） ・ 練習（＝段床式） 【平土間部分】 ・ 演劇、コンサート ・ ダンス、舞踊 ・ レセプション／飲食パーティー ・ ディナーショー ・ 展示 ・ 物販 ・ ワークショップ ・ 練習・リハーサル ・ 面接会／説明会	・ 固定段床式での利用形態にプラスして、平土間での利用が可能になることから多様な使い方、幅広いニーズに応えられる。 ・ 踊り・ダンス／インスタレーションといった舞台芸術だけでなく、平土間になることで美術や書道といった展示などへの利用が広がる。 ・ 舞台芸術の分野でも、舞台が固定されているのではなく、平土間状態では自由な発想で任意の位置に舞台や客席を設えることができる。 ・ 平土間での利用で、パーティなど飲食を伴う利用も想定できる。 ・ 椅子や机などを持ち込むことで、会議や講習会的な利用も想定できる。 ・ 以上のことから、利用率が高くなることが予想される。	・ ホールのいずれの位置も舞台になったり客席になったりする可能性があることから、ホールとしての性能以上に対応性（仮設性）に配慮した計画となる。 ・ 様々な利用に対して、舞台や客席の可変などの設置に手間取ることがある。 ・ 可動客席故に“揺れ”や“異音”の発生が懸念される。 ・ 可動客席のため、選択できる椅子に制約がある。 ・ 初期投資コストとメンテナンスコストが必要になる。